

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	小林 哲生	所属	NTT コミュニケーション 科学基礎研究所
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会幼児言語発達研究会		
成果概要	<p>1) 活動概要など</p> <p>幼児言語発達研究会は、2013年8月1日に正式に承認され、その直後に組織化を実施し、付録1に示す幹事メンバーで運営していくことを決定した。次に実施したのは研究会HPの立ち上げである(付録2)。同時に、メールなどでの研究集会などの開催の協議・調整を開始した。その議論の過程で、マルチプルな目的(研究発表やチュートリアル、徹底議論等)を達成するために複数タイプのイベント(研究集会、セミナー、講演会、シンポジウム)を開催しながら研究会活動を実施することで意見が一致し、年間活動方針を策定した。その方針に従い、初年度は以下のイベントを開催することになった。</p> <p>A) 研究集会：幼児言語発達研究に関する成果を発表する場として口頭発表及び報告書の出版(共催したヒューマンコミュニケーション基礎研究会の報告書で6ページの論文を発刊)。発表資格として本分野の実証研究をする方であれば、日本心理学会会員かどうかに関わらず原則発表可能とした。発表時間は20分(質疑5分)。以下、開催概要。</p> <p>名称：幼児言語発達研究会 第1回研究発表会  日時：2014年2月1日(土)、2日(日)  場所：鹿児島大学 郡元キャンパス 共通教育棟2号館211号講義室  共催：電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーション基礎研究会  発表数：15件(共催側の発表を含めると35件)  参加者：55名      会員 約15名(うち認定心理士 0名)※      非会員 約45名(うち認定心理士 0名)※  ※確認できない方が複数存在  資料：電子情報通信学会技術研究報告(IEICE Technical Report)  Vol.113, No.426(HCS2013-69 ~ HCS2013-103)</p> <p>B) 講演会：国内外の著名な研究者を招聘し、ホットなトピックスについて講演。今年度はリバプール大学心理学部からフランクリン・チャン博士を招いて、コネクショニストモデルの立場から幼児言語発達の研究動向について講演。京都大学の発達科学研究会と共催で実施。以下は概要。</p> <p>名称：幼児言語発達研究会 第1回講演会  日時：2013年12月19日(木) 16:30 - 18:30  場所：京都大学 吉田キャンパス 総合研究2号館 第9講義室  演者：Dr. Franklin Chang (University of Liverpool)  演題：Linking production, comprehension, and learning:  A computational P-chain approach</p>		

参加者：30名

会員 約8名（うち認定心理士 0名）※

非会員 約22名（うち認定心理士 0名）※

※確認できない方が複数存在

- C) シンポジウム：研究会メンバーを中心に学会などでシンポジウムを開催し、当該分野のアピールを目指す。今年度は、札幌で行われた日本心理学会第77回大会でシンポジウムを提案し採録。以下の内容で話題提供。なお、特別賞を受賞した高根芳雄先生に指定討論をお願いし、辛辣で生産的なコメントを多数いただき、好評。

名称：幼児言語発達研究会 第1回シンポジウム

日時：2013年9月21日（土） 9:20 - 11:20

場所：札幌コンベンションセンター 小ホール

番号：SS-056

演題：言語発達研究の新展開：

1歳代で起こる語彙発達の大きな変化を捉える

企画：小林哲生(NTT)・板倉昭二(京大)

話題提供者：針生悦子(東大)、村瀬俊樹(島根大)、南泰浩(NTT)、岡夏樹(京織工大)

指定討論者：高根芳雄(ビクトリア大学)、板倉昭二(京大)

- D) セミナー：特定のテーマを設定し、それについて2-3名から話題提供を頂き、1日かけて徹底的に議論する場。今年度はセミナーの実施ができなかったが、2014年5月17日に京都女子大学にて第1回セミナーを開催予定。参加者は幹事メンバーを中心に、当該分野の研究者や学生・院生などに告知し、参加を促す。但し、テーマについて深く理解し議論することが目的なので、不特定多数の人を集めることを目的としない。以下、概要

名称：幼児言語発達研究会 第1回セミナー

日時：2014年5月17日（土） 10:30 - 16:50

場所：京都女子大学

演題：親からの心的状態語の入力と心の理論（仮）

話題提供者：辻弘美(大阪樟蔭女子大学)、鈴木孝明(京都産業大)

指定討論者：板倉昭二(京大)

## 2) 集会等の目的・成果等

上述したイベントの開催により、当該分野の研究者が議論する機会が格段に上昇し、当該分野の研究活動が活発化した印象を受ける。特に、幹事メンバー間でのコミュニケーションの増大はもちろん、院生や学生とのつながりやコミュニケーションも増え、縦と横のいずれのつながりにおいても、研究会立ち上げ前後で大きく変化したと思われる。次なる目的は、この活動を継続し、本分野を盛り上げていくことである。欧米では、幼児の言語発達は非常にメジャーな分野で国際会議が毎年複数開催されるほどである。それに比べると、日本での活動は依然として小規模である。短期的な目標は、上で述べたとおりだが、長期的な目標としては、欧米と同規模の研究者がこの分野に参入するための下地を作っていくことである。そのための第一歩として今年度は十分な実績を上げた幹事メンバー間では考えている。

来年度の活動については、現在、研究発表会を2015年2月に開催することで準備を進めている。またセミナーを5月に京都で11月に金沢で実施することで準備している。シンポジウムについては、日本心理学会をはじめ、関連学会などで随時これから実施を検討していきたい。講演会も海外からのゲストを招いて秋には実施したい。こうした活動から、当該分野の研究成果が素晴らしい論文につながるよう、後押しをできるように進めていきたい。

付録1 幹事メンバー (★は系代表, ▲は事務担当)

- 心理学系

- 針生 悦子 (東京大学) ★
- 村瀬 俊樹 (島根大学)
- 板倉 昭二 (京都大学)
- 辻 弘美 (大阪樟蔭女子大学)
- 橋彌 和秀 (九州大学)
- 三浦 優生 (金沢大学)
- 佐藤 鮎美 (京都橘大学) ▲
- 小林 哲生 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所) ▲

- 言語学系

- 鈴木 孝明 (京都産業大学) ★
- 野村 潤 (京都女子大学)
- 大巻 明 (ジョンズ・ホプキンス大学)

- 情報工学系

- 南 泰浩 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所) ★
- 岡 夏樹 (京都工芸繊維大学)
- フランクリン・チャン (リバプール大学)



# 幼児言語発達研究会

## Seminar on Child Language Development

ホーム イベントのお知らせ ニュース 関連サイト 幹事 活動予定/報告

■幼児言語発達研究会は、2013年8月、公益社団法人日本心理学会内に発足した新しい組織で、乳幼児期における語彙や文法などの習得過程について、心理学、言語学、認知科学、情報工学などの視点から実証的に研究している人たちが集まっています。新しい成果を発表したり議論したりしながら、学際的な交流と連携により新しい展開を創造することを目的としています。

■幼児言語発達研究会では以下のイベントを企画/開催しています。

1. **研究発表会**：研究成果を口頭で発表。報告書も発刊（年に1回開催）。
2. **セミナー**：特定のテーマについて話題提供をいただき、深く掘り下げます。
3. **講演会**：国内外の興味深い研究を紹介してもらう場として開催。
4. **シンポジウム**：本分野の成果を幅広い層の人に知ってもらう機会として開催。

■幼児言語発達研究会は、公益社団法人日本心理学会からの助成を受け、日本心理学会所属の会員を中心に幹事を担当し、運営しています。事務局はありませんが、問合せは事務担当の小林（[kobayashi.tessel@lab.nitt.co.jp](mailto:kobayashi.tessel@lab.nitt.co.jp)）までメールにてご連絡ください。

研究発表会（2014年2月1、2日）のプログラムが決まりました。イベントのページをご覧ください。

**第1回研究発表会**  
2014年2月1日

◎鹿児島

検索

**アーカイブ**

2013年12月  
2013年11月

2014年 3月 31日

日本心理学会研究会 2013 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会幼児言語発達研究会

研究会番号 研 13031

助成金額 ¥40,000

年月日	項目	金額
2013年12月8日	施設使用料（幹事会，ウイングス京都）	¥3,300
2013年12月8日	スクリーン使用料（幹事会，ウイングス京都）	¥1,200
2013年12月19日	宿泊代（招待講演者，株フレックスステイホテル）	¥5,040
2013年12月27日	郵送料（切手，日本郵政）	¥4,020
2014年2月1日	飲み物代（研究会，ローソン）	¥2,062
2014年2月2日	お弁当代（研究会&幹事会，やまを）	¥9,820
2014年2月2日	バイト代（研究会受付2日分）	¥10,000
2014年3月9日	郵送料（切手，日本郵政）	¥2,800
2014年3月22日	郵送料（切手，日本郵政）	¥2,180
	支出合計	¥40,422